

「公共事業コスト構造改善」（平成 22 年度）

結果報告について

平成 23 年 1 2 月 2 6 日
行政効率化
関係省庁連絡会議

（これまでの取り組み）

公共工事コスト縮減対策関係閣僚会議により平成 9 年 1 月に策定された行動指針に続き、平成 12 年 9 月に「公共工事コスト縮減対策に関する新行動指針」が策定されました。これらに加えて平成 15 年度からは「公共事業コスト構造改善プログラム」が策定され、公共事業コストについてすべてのプロセスをコストの観点から見直す取り組みが行われてきました。

この結果、平成 19 年度までに、平成 15 年度と比較しての総合コスト縮減率は 14.0% となっております。

さらに、平成 20 年度からは、これまでの取り組みに加えて、コストと品質の観点両面を重視した「コスト構造改善」に取り組むこととし、その施策プログラムである「公共事業コスト構造改善プログラム」（以下「プログラム」）を策定し、平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 年間で、平成 19 年度と比較して、15% の総合コスト改善率を達成することを目標としています。

プログラムでは、「実施状況については、具体的施策の着実な推進を図る観点から、適切にフォローアップし、その結果を公表する。」こととしており、今回、平成 22 年度の実施状況をとりまとめ、報告いたします。

1. 総合コスト改善率

～平成 19 年度の標準的な公共事業コストと比較して 8.5% の改善

平成 22 年度は、政府全体（全府省・全公団等）で、コスト構造改善プログラムに基づきコスト改善施策を実施（別紙－1）。その結果、平成 19 年度の標準的な公共事業コストと比較した総合コスト改善率は 8.5% となった。また、物価や労務費等の全体的な物価変動を含めた場合には 7.3% となる。（別紙－2）。

今後も「公共事業コスト構造改善プログラム」に基づき、VFM 最大化を重視した「総合的なコスト構造改善」を推進していく。

○全府省・全公団等の平成 22 年度実績

総合コスト改善率	：	改善率：8.5%	改善額：2,870 億円
物価等の変動を含めた改善率	：	改善率：7.3%	改善額：2,500 億円

注）1. コスト改善実績は、全省庁が共通の考え方で算定作業を実施しており、平成 19 年度における標準的な公共事業のコストと比較している。

2. 総合コスト改善率とは、民間企業による技術革新の進展、老朽化する社会資本が急増する中で国民の安全・安心へのニーズや将来の維持管理・更新費用が増大することへの対応、近年の地球温暖化等の環境問題に対する世論の高まりを踏まえ、これまでの「総合的なコスト削減」からVFM (Value for Money) 最大化を重視した総合的なコスト構造改善効果を評価するものである。

2. 施策実施事例

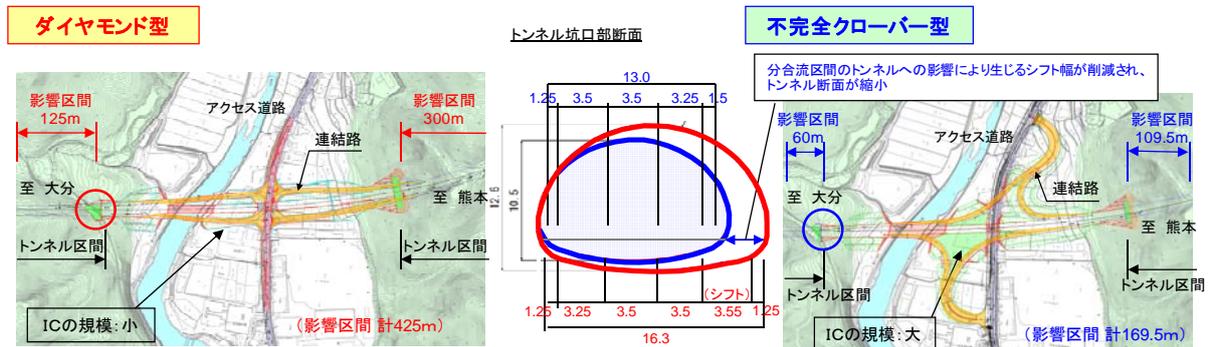
(以下 () 内は対応するプログラムの施策項目 (＜参考1＞参照))。

□ 計画・設計・施工の最適化

☛ IC形式の見直しによるコスト改善

(【1】計画・設計の見直し)

- ☛ 国道212号 三光本耶馬溪道路事業において、一般的に経済的である「ダイヤモンド型」構造を採用していたが、トンネル区間に分合流区間が影響しており課題があった。分合流区間のトンネルへの影響を極力抑えるため、連結路の延長を長くとることが可能な「不完全クローバー型」構造を採用することとし、ICの規模は大きくなるものの、全体としては24.4%のコスト改善(改善額 1,000百万円)



(国土交通省)

🔧 アーチコルゲート工法の採用

(【1】計画・設計の見直し)

- ・ 後野林道新設工事において、従来は鉄筋コンクリート橋による施工を行っていたのに対し、アーチコルゲート工法による施工とすることにより、工事期間の短縮が図られるとともに、**25.9%のコスト改善**（改善額 1,500 千円）

施工中



完成



(農林水産省)

□ 維持管理の最適化

🔧 木材の防腐処理による長寿命化計画

(【1】民間技術の積極的な活用)

- ・ 平成 22 年度横山集団施設地区園路等改修工事において、従来は木材をそのまま利用していたのに対し、防腐処理を行ってから利用することにより、初期投資額は増加するものの、耐用年数が増加することにより **17.2%のコスト改善**（改善額 233 千円/年 改善率 17.2%）



防腐処理を
行い利用



(環境省)

☛ 構内道路照明の高效率化に伴う維持管理費の改善

(【2】戦略的な維持管理)

- ・ 一期地区構内道路照明設備等更新工事（空港西通り）において、従来は道路照明に高圧ナトリウムランプ 400W を使用していたのに対し、消費電力の少ないセラミックメタルハライドランプ 220W に変更することで、視認性を向上させるとともに電気料金を削減し、42.7%のコスト改善（改善額 2 百万円/年）

(従来・高圧ナトリウムランプ)



(新・セラミックメタルハライドランプ)



(NAA 成田国際空港株式会社)

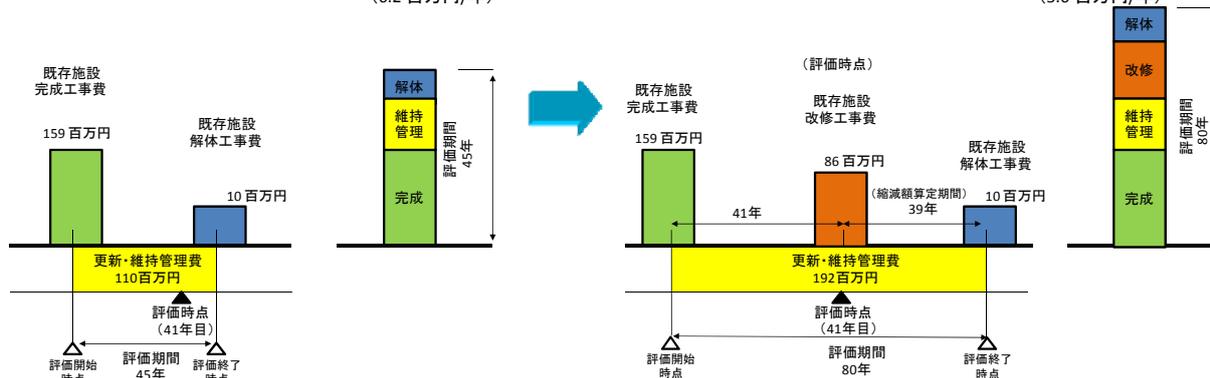
☛ 既存施設改修工事に伴う長寿命化によるライフサイクルコストの改善

(【3】効率的な維持管理)

- ・ 宮城教育大学（青葉山）体育館改修事業において、建設後 40 年以上経過した対象施設に、通年多大な維持管理費を投資していたが、耐震化を含めた既存施設の全面改修により、施設の長寿命化・延命化がなされ 14.1%のコスト改善（ライフサイクルコスト毎年の改善額 0.6 百万円/年 ライフサイクルコスト改善額（現在価値）12.1 百万円（改善額算定期間 39 年））

【アクション前(従来工事)】 LCC費用総額 279 百万円
(6.2 百万円/年)

【アクション後(改修工事)】 LCC費用総額 447 百万円
(5.6 百万円/年)



(文部科学省)

【連絡先】

内閣官房副長官補室

内閣参事官

徳永政道

TEL: 5253-2111(内 82415)

主 査

岩田英大

5253-2111(内 82448)

3581-2528(直通)

公共事業コスト構造改善プログラムの概要

- ① (国民の安全・安心へのニーズや将来の維持管理・更新費用が増大することへの対応、近年の地球温暖化等の環境問題に対する世論の高まりを踏まえ、) これまでの「総合的なコスト縮減」から「VFM (Value for Money)」最大化を重視した「総合的なコスト構造改善」に向けて取り組むべき施策をまとめたもの。
- ② 施策の実施にあたっては、社会資本が本来備えるべき供用性、利便性、安全性、耐久性、環境保全、省資源、美観、文化性等の所要の基本性能・品質の確保を図ることとする。
- ③ 内容は、
 - (1) 事業のスピードアップ (3項目)
 - (2) 計画・設計・施工の最適化 (5項目)
 - (3) 維持管理の最適化 (3項目)
 - (4) 調達の最適化 (3項目)の合計14項目。
- ④ 平成20年度から5年間で、平成19年度と比較して、15%の総合コスト改善率を達成することを目標とする。
- ⑤ 毎年度、施策実施状況と数値目標についてフォローアップを実施。

公共事業コスト構造改善プログラムの施策番号一覧

I. 事業のスピードアップ

- 【1】合意形成・協議・手続の改善
- 【2】事業の重点化・集中化
- 【3】用地・補償の円滑化

II. 計画・設計・施工の最適化

- 【1】計画・設計の見直し
- 【2】施工の見直し
- 【3】施工プロセスにおける効率性の確保
- 【4】民間技術の積極的な活用
- 【5】社会的コストの低減

III. 維持管理の最適化

- 【1】民間技術の積極的な活用
- 【2】戦略的な維持管理
- 【3】効率的な維持管理

IV. 調達最適化

- 【1】電子調達の推進
- 【2】入札・契約の見直し
- 【3】積算の見直し